

子ども子育て環境整備事業進捗状況について

平成27年11月6日

健康福祉部子育て支援課

(仮称) 向台こども園 施設計画



増築建家は、冬季も周辺樹木の日影の影響を受けにくい快適な環境の確保、既存園舎との連続性を考慮し、園庭東側に配置します。屋根の色を、既存の向台幼稚園と合わせることで、全体に一体感を持たせます。

園内へのゲートとして、屋根のあるひろば（おむかえひろば）を設けます。

駐車場の位置は変えず、最小限の樹木の整理と、区画線の整理をして車路を広くとり、止めやすい駐車場にします。

既存幼稚園の一部を改修して、調理室、2歳児保育室等を設けます。

職員室は、「おむかえひろば」に面する南側に設けます。増築園舎の入口となり、既存園舎の保育室・ホール、園庭を含む園内全体が見渡せると同時に駐車場の様子も把握できます。

既存建家とともに、コの字型に園庭を囲み、子どもたちを優しく包み込む構成とします。駐車場と園庭を増築建家によって区分し、子どもたちにとってより安全な環境をつくります。

都市計画法上必要になる地下貯留施設を設けます。グラウンドに暗渠排水管を巡らせるため、既存グラウンドの環境改善も図ることができます。

※イメージ図



地下貯留施設



暗渠排水



外壁: 木目調サイディング 屋根: ガルバリウム鋼板



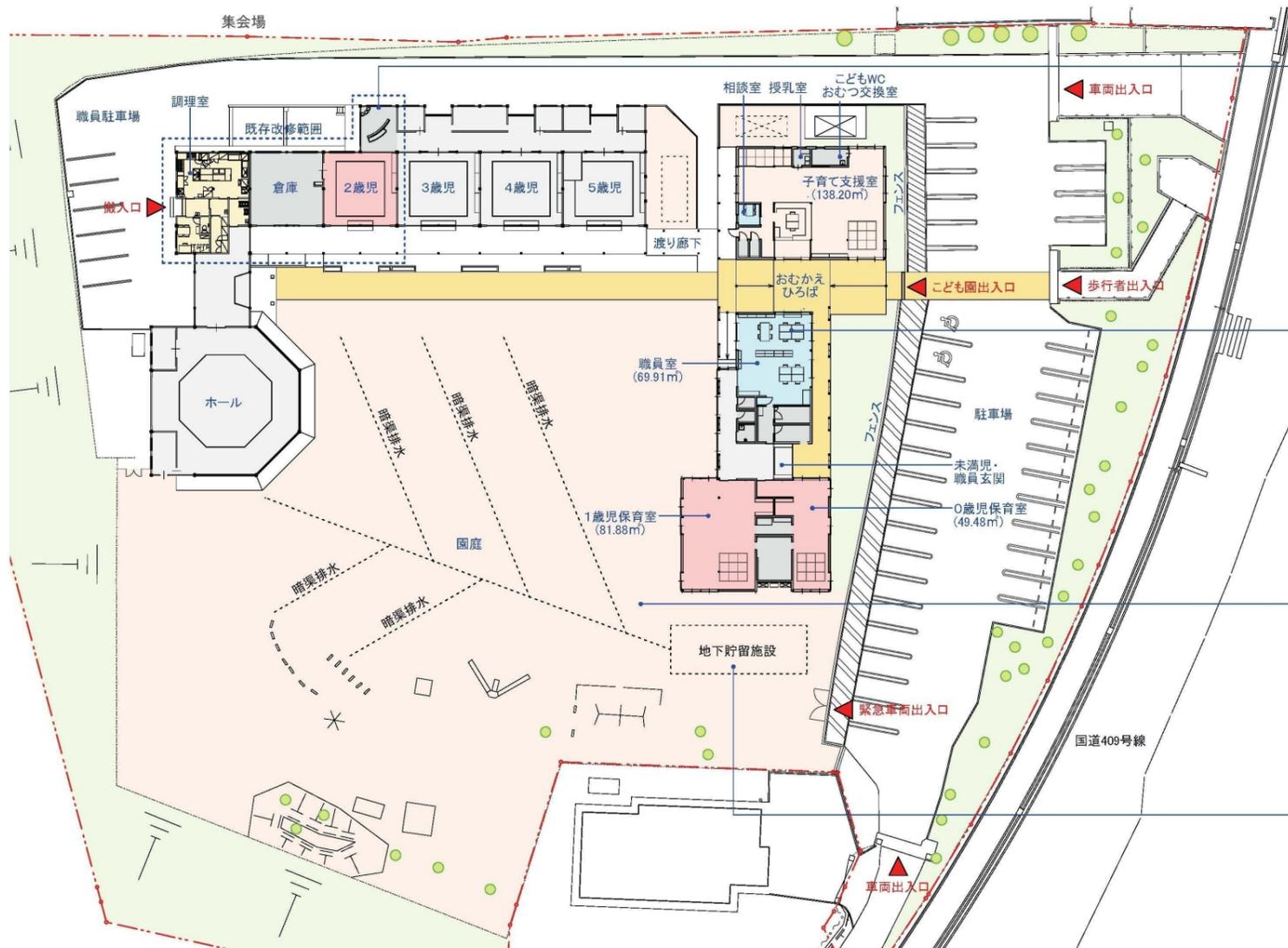
1歳児保育室のイメージ



子育て支援室のイメージ



職員室のイメージ



(仮称) こども館 施設計画



外装使用材料 ※イメージ図



屋根:ガルバリウム鋼板



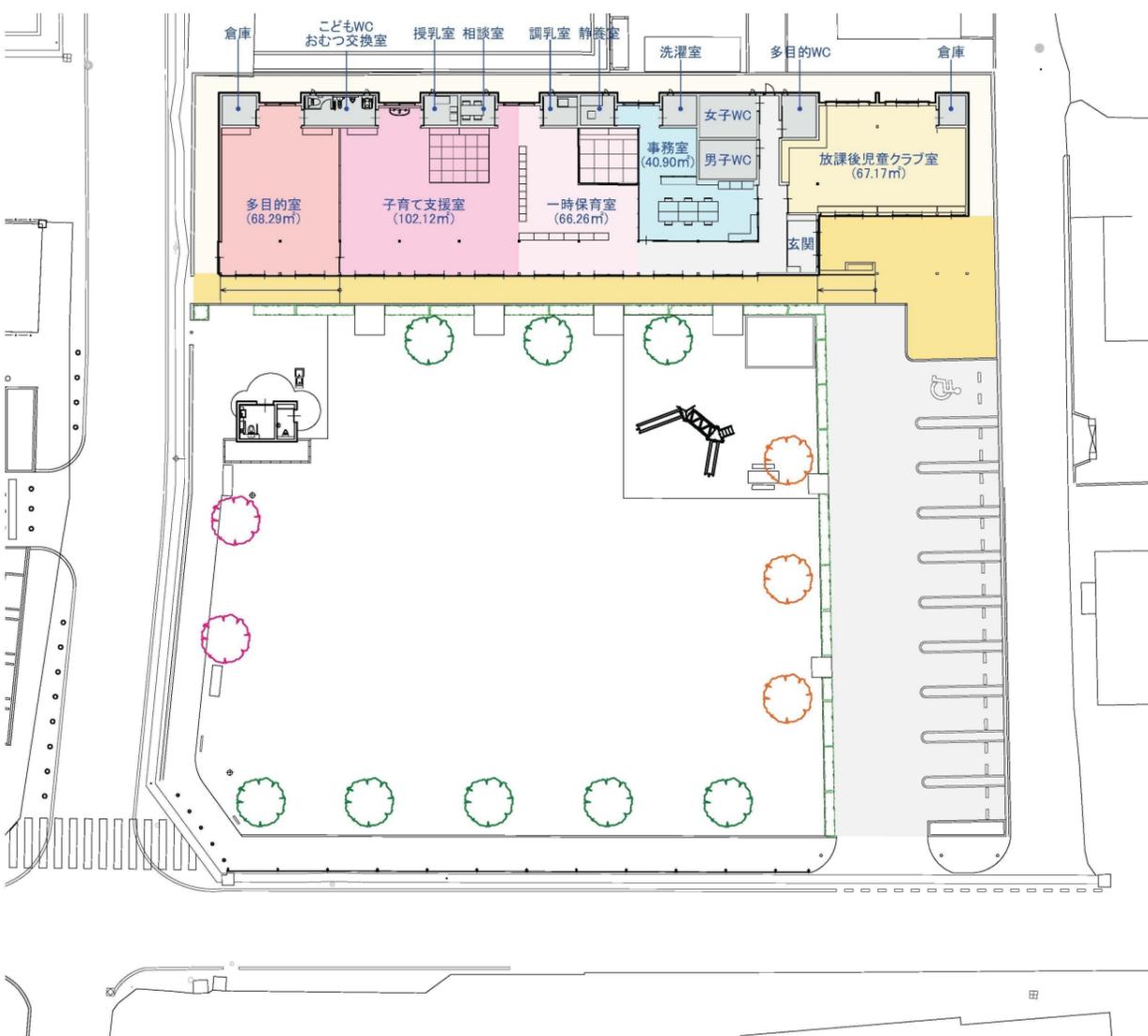
外壁:木目調サイディング

屋根の色を、既存の葉山保育園と合わせることで、地区全体に一体感を持たせます。

こども館の南側に公園を設けることで、こども館の居住環境を向上させます。

こども館専用の駐車場を確保することで、利便性を高めます。

公園には、死角となる場所は設けず、見通しを良くし、安全な公園とします。



放課後児童クラブ室のイメージ

構造体を使用している木材を出来る限りそのまま見せることで、温かみのある空間をつくります。

子どもたちの手の触れる腰壁にはヒノキの板材を採用し、木のぬくもりを感じられる環境をつくります。



子育て支援室のイメージ

多目的室の壁一面をホワイトボードとし、大人からこどもまで使えるものとしします。

多目的室の建具を開くと、一時保育室から多目的室まで広々とした一体的な空間となり、活動の幅を広げます。

小さなこどものスペースは、段差のないフラットな畳敷きとして、小さなこどものほふくスペースとします。



子育て支援室のイメージ

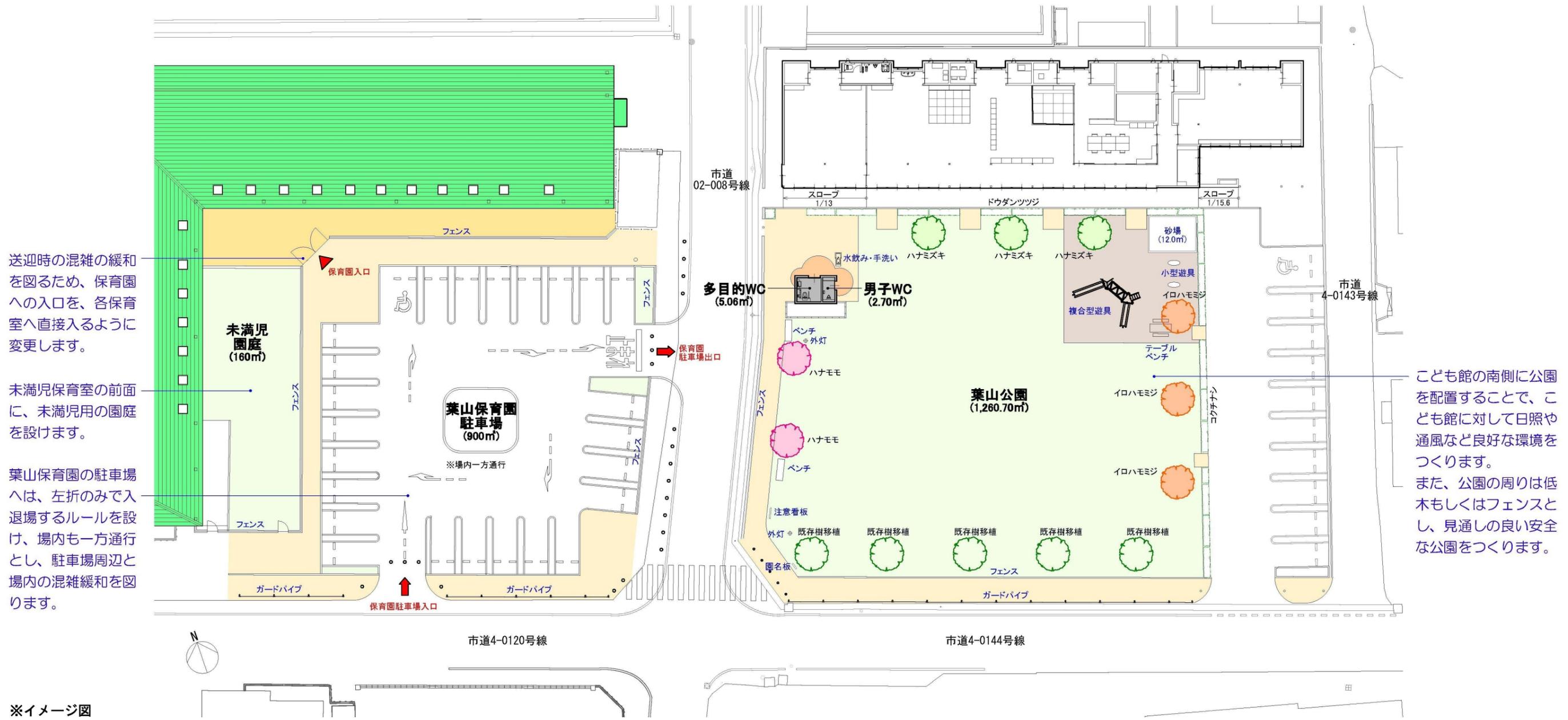
一時保育室の畳コーナーは建具で囲えるようにし、一時保育利用児のお昼寝スペースとして使用できるようにします。

床にはヒノキの無垢材を使い、裸足でも安全に快適に過ごせる環境をつくります。

また、床下空調を採用し、天井が高くて床に近い活動域は快適な温度環境を保てるものとしします。



葉山公園・葉山保育園駐車場整備計画



送迎時の混雑の緩和を図るため、保育園への入口を、各保育室へ直接入るように変更します。

未満児保育室の前面に、未満児用の園庭を設けます。

葉山保育園の駐車場へは、左折のみで入退場するルールを設け、場内も一方通行とし、駐車場周辺と場内の混雑緩和を図ります。

こども館の南側に公園を配置することで、こども館に対して日照や通風など良好な環境をつくります。

また、公園の周りは低木もしくはフェンスとし、見通しの良い安全な公園をつくります。

※イメージ図



※イメージ図



子ども子育て環境整備工事スケジュール

	平成27年度					平成28年度												
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
解体撤去工事	塀・埋設物撤去																	
(仮称)こども館施設整備工事			(仮称)こども館建築工事															
葉山地区子ども子育て環境整備工事		既存公園撤去	葉山保育園駐車場 未満児園庭 市道4-0120号線歩道整備	葉山公園整備														
													歩道整備 市道4-0143号線拡幅工事					
(仮称)向台こども園施設整備工事			解体撤去 駐車場整備	(仮称)こども園増築工事														
													雨水貯留槽 埋設工事	(仮称)こども園改修工事				